

わーく&らいふ

平成28年8月30日 進路指導部 発行

■CONTENTS■

★トピック 障害基礎年金研修会報告

トピック 障害基礎年金研修会報告



昨年度に引き続き、夏季休業中の美化作業後、研修会が行われました。美化作業でたっぷり汗をかいた後にもかかわらず、50人ほどの保護者が熱心に研修会に聞き入っておられ、関心の高さが伺えました。

お二人とも非常にわかりやすい講話で、この種の研修会には何度も参加したことのある筆者にもよい学び直しとなりました。以下に、当日講話の概要を掲載します。研修資料は当日不参加だったご家庭にもすべて配付の予定ですので、わーく&らいふ今回号と照らし合わせながらご覧頂くとより理解が深まると思います。

1 コミュニティセンターりんくる 山田博美様の講演要旨

◆「障害基礎年金取得は、親の最大の仕事である。」

- ・療育手帳段階と年金等級は異なり、難解な部分もある。まずあらましを知ってほしい。
- ・障害基礎年金の目的は、所得保障である。
- ・相談支援事業所が支援してくれることを覚えておいてほしい。

◆「年金申請に向けたフロー」 ※研修資料を参照してください。

◆「年金取得に向けて親がしておく準備」

○年金申請には、二つの書類提出が必要である。

- 1 診断書（精神科医が記入する）
- 2 病歴・就労状況等申立書（保護者等本人のことを詳細に知る者が記入する。）

○書類作成に向けて必要なこと。

★上記1の診断書作成に当たっては、精神科医の診断が必要である。

多くの場合、本人に会ったことのない医師が診断書を書くため、保護者は子どもの生育歴や障がい像等を、医師に的確に伝える必要がある。

とはいえ、親であっても幼児期の様子をその場で的確に説明することは困難。

★上記2の申立書は、大まかに「就学前」「小学校時代」「中学校時代」「高校時代」「学校卒業後」の状況をまとめて記載するもの。これを書くのは親であっても記憶の曖昧さがあるためかなり困難となる。

★生活状況の判断は、親が困っていないかが基準ではなく、一人暮らしをさせた場合、何の支援がなくとも生活が「できる」かどうかが基準である。

★年金の審査に当たって、年金事務所が本人に会うことはない。つまり、提出する上記二つの書類の重要さがここにある。

役立ちポイント「エピソード集」を作っておきましょう。

生まれてからこれまでの成長の様子やエピソードを、早期からまとめておくことが重要。同年代の子どもと比較してどこに困難さがあったか、がんばってもできなかったことは何かなど、定型発達の人と比較した困難さを書いていくと良い。

2 荒尾こころの郷病院 医療相談室 松隈幸雄様の講演要旨

◆診断書作成は共同作業。

- ・山田様の講演内容にもあったとおり、基礎年金の判定に当たっては二つの書類が重要な役割を果たします。特に重要な医師の診断書ですが、通院をしたからといってすぐに書いてもらえるものではなく、そのための準備が欠かせない。家族の役割はもちろん、就労先（福祉サービス事業所）・出身校等が協力し、よりの確な情報を整理しておく必要がある。

◆事前にできる・しておく準備を計画的に

○エピソード集の作成

生まれてからその時点までの受診歴や生活状況をつぶさに記録しておく。いいこと、わるいこと、大変だったこと等をその都度記録しておく。

○心理検査結果の取得

療育手帳判定時に、児童相談所で心理検査を受けている。次回判定に当たっては、心理検査の結果をほしい旨申し出ると受領できるし、直近の情報ならば、保護者が申請すると情報開示できる。この情報も重要なので、精神科医に受診する前に手に入れておき受診に持参すると良い。

○精神科の受診予約

受診については予約制としている病院も多いので、これを見越して事前に予約の電話を。だいたいの目安としては、20歳になる2ヶ月前程度。

○病歴・就労状況等申立書の記載

基準は前述の通り「単身での生活」一人暮らしをすることを前提に、どの程度「できないか」を記載する。親は「できない」ことを並べるのは辛い、この際は「できない」ことを的確に書くこと。

この申立書と診断書の齟齬がないように、記載に当たっては鉛筆書きして、修正可能にしておくこと。

○時間の見通し

診断書作成には1ヶ月ほど、年金の申請後可否の判断までには3ヶ月ほどかかる。

○こころの郷病院では

診察室では緊張するため、あらかじめ相談員が必要事項を聞き取っておくなど支援して頂けるとのこと。

○年金支給の更新

知的障がいの場合、以前は更新無しの永久認定だったが、最近は定期的に認定の見直しが行われるようになった。（障害の状態によって異なる）
従って、最初に診断書を書いてもらった病院へは年に数回生活状況報告のため通院し、カルテに残すようにしておきたい。

<編集後記>

将来の進路をデザインするに当たって、所得総額は重要な要件です。そのために重要なのが障害基礎年金ですが、近年審査のガイドライン化が図られるなど、その要件が変わってきており、最新の情報を得ておくことが重要です。今回の研修会や今回の記事に関するお尋ねがありましたら遠慮なく進路指導部へお尋ねください。